

中田

平成 24 年度中田の物産展



▲中田町の特産品を買い求める沢山のお客さんでにぎわいました

中田の美味しい贈り物

毎年恒例となっている「中田の物産展」が、11月11日、18日の2日間、神奈川県横浜市と東京都葛飾区でそれぞれ開催されました。この物産展は、開催地の自治会、町会などの文化祭やフェスティバルにあわせて、中田町の特産品などの販売やPRを行い、都市と農村の交流を図ろうと毎年開催しているものです。会場では、つきたてのずんだ餅や油麩入りのはっと汁が振る舞われ、来場者からは「毎年、新鮮な野菜やずんだ餅を楽しみにしている」との話もあり、多くの来場者でにぎわっていました。

迫

手作りのタオル帽子を贈呈



▲施設を代表してプレゼントを受け取る白石弘美理事長（左）

心のこもったプレゼント

「えがお」タオル帽子倶楽部の会員が12月10日、通所介護施設「わらいの館四季」を訪れ、身近にあるフェイスタオルなどで手作りした「タオル帽子」をプレゼントをクリスマスプレゼントとして手渡しました。この取り組みは、もともと抗がん剤治療などで脱毛した方々にタオルで手作りした「タオル帽子」を提供しようとしたもので、地域に暮らすがん患者さんの治療や日常生活に少しでも役立てるよう活動しています。今回のプレゼントは、利用者の方々に入浴後や散歩時に使ってもらおうと会員が一生懸命製作したものです。

冬空に輝くイルミネーション

今年で13回目を迎える豊里冬の風物詩「豊里駅前冬の蛍通り」点灯セレモニー&クリスマスパーティーが12月1日、豊里駅前広場で開催されました。当日は、天候に恵まれ、セレモニーが行われた後、点灯のスイッチが押され、駅前の産直施設とイチョウの街路樹に設置された色とりどりの電球約4万個が一斉に点灯しました。パーティーでは、温かいコーンスープなどが振る舞われたほか、サンタクロースの格好をした実行委員が子どもたちにお菓子のプレゼントを配るなど来場者は一足早いクリスマス気分を楽しみました。



▲駅前を飾る色とりどりのイルミネーション

豊里駅前冬の蛍通り

豊里

もちつきって楽しいね

北上保育園で12月7日、恒例となっている「もちつき大会」が開催されました。このもちつき大会は、園児が幼年消防クラブに入っていることから、市消防署津山出張所の協力の下、冬季の防火啓発事業の一環として実施されているものです。保育園の玄関先に用意された杵と臼に蒸しあがったもち米が入られ、よくこねたところで園児たちが子供用の杵でもちつきに参加。一生懸命餅をついていました。餅はすぐに、あんこ餅、きなこ餅、お雑煮などに調理されて振る舞われ、園児たちは自分でついたお餅を味わっていました。



▲掛け声に合わせて、力いっぱい餅をつく園児たち

北上保育園でもちつき大会

登米

米山

入善町のマラソン大会に参加



▲あいにくの雨模様でしたが力いっぱい走る児童・生徒

姉妹都市と友好を深める

友好姉妹都市である富山県入善町との派遣交流事業の一環として、市内の小・中学生14人が11月17日から19日までの3日間、入善町を訪問しました。子供たちは18日に開催された「第20回扇状地マラソンINにゆうぜん大会」に参加。あいにくの雨模様でしたが、全員が完走しました。最終日には、入善町立黒東小学校を訪問し、全校児童との交流会に参加。互いの自己紹介や黒東小学校、入善町の紹介全員での交流ゲームなどが行われ、短い時間ではありましたが、すぐに打ち解け交流と友好を深めていきました。

東和

ますぶちを元気にする地元学



▲発表に使用された絵地図は地域に寄贈されました

地元の魅力を再認識

東和町鱒淵地区を歩いて回り、地域の魅力を発見していく「ますぶちの元気をつくる地元学」の発表会が12月2日、及甚と源氏ポータル交流館で行われました。この事業は、NPO法人日本エコツーリズムセンターと鱒淵小学校運営委員会が企画。豊かな水と自然とともに生きる自給自足の知恵や暮らしなどが紹介されました。アドバイザーとして参加した熊本県水俣市で地元学を実践している吉本哲郎先生は、「水がうまい！空気も野菜も。何よりも人々がたくましく生きていた。笑顔が素晴らしい。」と、地域の美しさを話していました。